

【高松市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和6年3月に、第2期高松市 ICT 教育推進計画を策定した。基本目標を「ICT を日常的に活用することを通して、新しい時代に必要な資質・能力を育成する」とし、ICT を日常的に活用することで、個々の学習進度に合わせて、学び直しや発展的な学習を行う「個別最適な学び」のほか、異学年や他校の児童生徒、地域の方々とつながり、共に学ぶ「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

コロナ禍においても学びを保障するため、児童生徒に1人1台端末をはじめとした学校 ICT 環境の整備を完了した。また、学習指導要領解説総則編に示されている三つの観点「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を踏まえ、到達目標を「高松モデル」として整理し、各教科等を通じて、児童生徒の情報活用能力の育成に取り組んできた。さらに、ICT 利活用を推進するため、研修の実施や活用事例の紹介、ICT サポートスタッフ・支援員等の配置により、活用頻度が増加し、その結果、学習支援ツールの活用による個別最適な学びや協働的な学びの充実、端末持ち帰りの本格運用による授業と家庭学習のシームレス化へとつながった。その一方で、活用状況において、学校間・教職員間に活用差が依然として残っていることが課題として挙げられる。

GIGA 第2期においては、県域での児童生徒1人1台端末の共同調達等を端緒とし、県内の各学校との情報共有を積極的に行い、学校間の ICT 環境及び ICT 活用状況の差をなくすことで、児童生徒の学びの質のさらなる向上を目指す。

3. 1人1台端末の利活用方策

【1人1台端末の積極的活用】

「教師が使わせる」活用から、「児童生徒が主体的に使う」活用への転換を進めることで、児童生徒の資質・能力の育成に資することができる。そのために、学校のニーズに応じた訪問研修（アウトリーチ型研修）や、児童生徒と同じ環境で実施する教員研修等、ICT 活用支援の拡充により、教職員の ICT 活用指導力の向上や授業観・指導観の転換を目指す。

【個別最適・協働的な学びの充実】

従来の授業を見直し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現することによって、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。全教職員が目指すべき姿や授業を共有できるように、研究指定校における授業公開や活用事例の紹介、指導主事等による学校への訪問指導の際に、クラウド活用に関する指導助言を行う。また、令和6年度から令和8年度にかけて、小・中学校の特別教室及び特別支援教室

に電子黒板を整備・配置する計画としており、児童生徒が発表する場面等での活用と発信力の向上が期待できる。

【学びの保障】

クラウド環境を活用した連絡体制、教材の共有、オンライン授業への参加等、ICT の持つ特性を最大限活用し、様々な理由により登校が難しい児童生徒や、障がい等により特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対し、きめ細かな対応を行い、全ての子どもたちの学びを保障することを目指す。